

L I T T L E B I G

第 75 号 2023. 9. 5

発行：福島県立図書館 こどものへや

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

<https://www.library.fcs.ed.jp/>

【 Pieces - かけらたち - 】本の中の言葉

当館の職員が読んだ本の中から、素敵な言葉、心に残った言葉を集めました。
みなさんの心にも届いたら、ぜひ手にとって読んでみてください。

◆「ものごとを言葉の鳥かごに入れてしまったらいけないよ」

なんの話？

「ここまで歩いてきて、ちょっと小腹をすかせたまま図書館ですごしてから、
パフェにありついて、さくらんぼを食べた」

「はあ」

「たしかに図書館の様子を見るだけなら、ネットで画像検索すればすむ。

わざわざ歩いてくることはない。暑かったしね。コスパは悪い。けど、その《コスパ》
という言葉の鳥かごに、パフェも、さくらんぼも入らない」

『ソラモリさんとわたし』(はんだ浩恵／作 フレーベル館 2021.12 p95)

◆「なんともないなら、こんなことをいつまで続ければいいんだろう。

先生に聞いたって、答えられないだろうな。

教えて偉い人。うちはどれだけ、がまんとやらをすりゃいいんですか。

『スクラッチ』(歌代朔／著 あかね書房 2022.6 p39)

◆「わたしの自閉の場合、いつも特別な力を発揮するわけじゃありません。

大変なこともあります。でも、なにかに没頭しているときや、ほかの人が見過ごすような
細かいところに気づけたときには、心から自閉でよかったって思います」

『魔女だったかもしれないわたし』

(エル・マクニコル／著 櫛田理絵／訳 PHP 研究所 2022.8 p231)

◆もしユダヤ人だったら。もしあの時代に生まれていたら。もしヨーロッパで暮らして
いたら。日本人とイタリア人の国際児であるわたし。今の時代に生まれ、日本で暮ら
しているわたし。それって、まったくの偶然なんだ。あのときはママの言っていることが
よくわからなかったが、今ならわかる。今この瞬間も、地球上で、ものすごくひどい目に
あっている人がいる。自分がその人じゃないのは、ただの偶然なんだってこと。

『パンに書かれた言葉』(朽木祥／作 小学館 2022.6 p66)

戦争って？
平和って？

ロシアによるウクライナ
侵攻が長期化している最
中、2023年5月にG7広
島サミット2023が開催さ
れました。かつて原子爆弾
の被害を受けた広島に主
要7か国の首脳たちが集
うということは、どんな意
味があるのでしょうか？

そして首脳だけでなく、
ともに現代を生きる私たち
にも何かできることはある
のでしょうか？ここではそ
んな疑問にヒントをくれる
本を紹介します。

『10代が考えるウクライ
ナ戦争』(岩波ジュニア
新書編集部／編 岩波書
店 2023)

『from under30 世界
を平和にする第一歩』
(井手上 獏／(ほか)著
河出書房新社 2022)

『池上彰の君と考える戦
争ない未来』(池上彰／
著 理論社 2021)

『未来をつくるあなたへ』
(中満 泉／著 岩波書店
2021)

＼YAの本棚から／

中高生のみなさん（YA）のためのコーナーからおすすめの本を紹介します。

『母の国、父の国』

（小手鞠 るい／著 さ・え・ら書房 2022.7

913/㉔）



日本で育ち、現在はアメリカで英語から日本語への翻訳の仕事をしているエミリは世界中からかかってくる電話を受け、話を聞いて、必要があれば警察や学校、福祉施設に保護や援助を依頼するというボランティアをしています。ある日東京の子どもから電話がかかってきて、話を聞くうちに母親から虐待されているらしいことがわかりますが、途中で電話が切れてしまいます。その電話をきっかけに、母親に捨てられ、外国にルーツがあることで差別されいじめられたエミリ自身の子どもの頃の記憶がよみがえります。

『ユ・ウォン』

（ペク オニユ／著, 吉原 育子／訳 祥伝社

2022.3 929/㍲）



12年前、6歳だった時にマンションの火災事故に遭った主人公ユ・ウォン。その事故で姉は妹のウォンだけをベランダから投げて亡くなり、ウォンを受け止めたおじさんは足に重い障害を負います。ウォンは奇跡の象徴とされ、おじさんは英雄と称えられますが、12年経っても周囲から神格化された姉や、時々お金を無心に来るおじさんがウォンは嫌でたまりません。そんな中、ウォンはひよんなことから同級生のスヒョンと知り合います。自分とは正対的な性格のスヒョンにウォンは徐々に心を開き始めますが…。

『千に染める古の色』

（久保田 香里／著, 紫昏 たう／絵 アリス館

2022.9 913/㉔）



平安時代の京の都。かぐや姫とよばれた姫がいました。その名は千古姫。13歳の成人の儀式「裳着」が近くなり、周囲が準備で慌ただしくなるなか、当の本人は毎日に退屈していました。思ったことは口にし、自ら行動する性格の姫は、ある時、織物のかさね襲や染めに興味をもち、源氏物語に出てくる襲を内緒で再現しようと試みます。時には女めのわらわ童に変装し、御殿の外の工房で染めを体験してみる等、慣習に逆らい自分の意思に従って突き進む姫。一方では、初めての恋文に心が揺れ動き…。

『ぼくたちのスープ運動』

小さな思いやりが世界を変える!』

（ベン・デイヴィス／作, 渋谷 弘子／訳 評論社

2022.2 933/㉔）



ジョーダンはママが作ってくれる栄養たっぷりのスープを公園にいたホームレスの人にあげてしまいます。友だちがした嫌がらせへの罪滅ぼしのためでしたが、思いがけず感謝されます。そこで、姉のアビや周りの人たちを巻き込んでホームレスの人たちにスープを配る運動を始めます。「助けを必要としている人がいたら行動に移すこと」は小児がんの闘病中に会った少女リオとの約束です。ジョーダンが始めた小さな行動が町を動かす大きなうねりになっていきます。